

霧ヶ峰高原活性化・再整備 検討調査結果（概要）

令和4年3月
株式会社K R C

1. 活性化・再整備に向けた課題の整理	2
2. 活性化・再整備の基本方針と取り組み	3
3. 市有施設再整備等の方針	5
(1) 再整備等の方針設定	5
(2) 当面の展開(案)	6
(3) 再整備の想定ケーススタディ	7
4. 今後の進め方(イメージ)	9
【参考】 基本方針設定・取り組みの参考資料	10

1. 活性化・再整備に向けた課題の整理

観光利用動向・施設の状況や地元の旅館組合からの聞き取り、利用者のニーズ、サウンディング調査等の結果から見いだされる「ニーズと現状とのギャップ」を整理し、今後取り組むべき課題を抽出しました。

霧ヶ峰の観光利用・観光施設等の状況とニーズ・関係者意向等の整理

課題の整理

一帯の観光施設の現状

- 通過型の観光地化。夏季のキャンプを除き、来訪者、宿泊者が減少傾向。
- スキルをもった復活ファミリー層が主体のスキー市場のなか、初級向けゲレンデのみの限界。
- リフト運営での支出超過
- 温暖化の影響による雪不足
雪不足への対応力不足
- コミュニティの縮小と地域の普請等の担い手不足
- 公共の観光施設（建築物）の老朽化
- 企業の保養施設運営からの撤退
- 合宿利用受け入れが土台にある宿泊施設

地元宿の声

- 通年を念頭に置いた経営特性
通年利用によって成り立ってきた経営環境・施設。スキー場運営の継続は重要。
- 店舗（販売・食事）と宿泊の両機能を家族単位で経営。
- キャンプ場の今後の可能性への期待あり。
- 年末前に開場できるスキー場が理想。温暖化を念頭においた新たな展開模索が必要ではないか。
- コロナ禍で変化する客層
- 四季折々の楽しみの提供の重要性
- 自然公園法の制約（建築物改修も容易には進まない）

霧ヶ峰への潜在ニーズ

- 霧ヶ峰を知らない世代の増加
より多くの人に「霧ヶ峰」を伝える必要性
- 誘客圏居住者からは高い期待度
- 冬への関心の低さ
- リピーターは多いが「初めて」の来訪者も相応にいる。コロナ禍も影響し、一人旅や自然散策目的の利用者も一定数あり。
- いい場所・いい体験を求める若者世代
- 温泉に高い関心あり
- 仮に行く場合にエリア内で宿泊を希望する方は多い傾向（アンケートより）

サウンディング型市場調査での提案

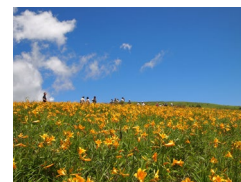
- 地元ベースの雇用環境・循環創出（実績あり）
- いいところをよくすることで生まれる差別化方策を展開
- 収益力向上を重視
- 呼びたい世代をその同世代が情報発信することの重要性
- 雪をつくれるノウハウを活用

【霧ヶ峰の評価】

- ・景色は唯一無二・豊富な天然資源
- ・高く売れるものを安く売ってしまっている現状
- ・雄大な景色を眺めながら何か体験が楽しめる場が少ない

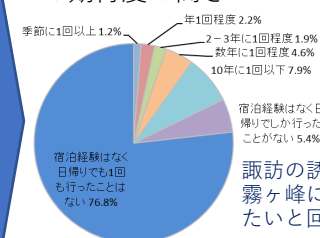
強み・ニーズと現況とのギャップ（ミスマッチ）

すばらしい景観資源
国内有数の草原景観



雄大な景色の中に入り込めない
四季を楽しみづらい
施設環境
支える人・地域の担い手も減少
強みを安価で販売している現状

次世代・初来訪者の期待度の高さ



現地では初来訪の人には、案内マップの所在、見どころや散策ルート等の情報案内が不十分

居心地のいい場所を求める旅行ニーズ（とくに若い世代）

使われない建物の増加・廃墟化の懸念

温泉、宿泊への期待



自然・風景＋温泉プラス〇〇の発掘の必要性
新たな取り組みが県内の高原エリアでも進行中（テラス、キャンプ等）

『学校』で来た経験者の多さ
森が少ない緩傾斜のもつ環境は「初心者」向け

団体旅行減少
少子化
学校に代わる新たな初心者ターゲットが見定まらない

課題

- ・施設と風景、施設間、季節相互等様々な要素の相互の繋がりが不十分
(景色は景色・キャンプはキャンプ、食事は食事、スキーはスキー 等)
- ・滞留や滞在を促す「景色＋α」を楽しめるストーリー性と環境づくりの重要性

- ・「霧ヶ峰初心者」の高い「期待度」に応えることのできるサービスレベル向上

- ・空き建物の増加等による風景の質の低下の防止

- ・「ここに行きたい」と思わせるコンテンツや発信のさらなる強化

- ・時代に合わせた次世代の顧客開拓の必要性

2. 活性化・再整備の基本方針と取り組み

霧ヶ峰の活性化・再整備には、観光事業者のほか、土地所有者、行政のほか様々な主体の関与が必要です。霧ヶ峰全体を見渡して見出された今後の課題を踏まえ、関係する主体すべてが共有すべき今後の方向性を5つの基本方針としてまとめます。そのうえで、5つの方針それぞれについて、ソフト・ハードの両面から重視すべき方向性と取り組みを整理します。

活性化の基本方針の設定・取り組み内容の整理

方針1

**霧ヶ峰の天然資源を
活かし切り地域経済を循環
～天然資源フル活用で生み出す好循環～**

<ポイント> 収益力向上ができる
施設管理・運営と
補完的整備

通年の多様なネイ
チャー体験

ソフトの方針

四季それぞれの既存資源を活かし、つながりを構築できる民間の事業体のノウハウを取り込みながら、かつ地元や行政とも連携できる体制を構築

- 一帯の観光施設の活用と季節の違いを活かせる新たな施設の整備をセツトとした民間運営等の調査検討
- 地元との定期的な協議調整
地元に密着した事業体探し、運営体制構築の準備

ハードの方針

民間活力を導入して一帯の自然や景色を活かし、観光施設の活用・再整備や一帯の魅力向上につながる施設を整備

- 収益力向上・地元連携につながる既存施設の機能強化・改修
- 収益力向上のための民間による新たな施設導入の検討
・関係者による協議会等を通じた検討
・スキー・キャンプやアクティビティの拠点
・法的手続きに関する調整等

方針2

**新たな霧ヶ峰ファン獲得に向けた発信・サービスの充実
～霧ヶ峰デビューサポート～**

<ポイント> 次世代や関心をもつ
方々に向けて
知って、来ていただく
流れを創出

次世代向けの啓発やPR・発信の拡充
初来訪者がより多く立ち寄る拠点施設でのサービスの充実

- 世代に応じた訴求力ある情報発信
- 新たなファン獲得のキャンペーン
(通年の複数回来訪者への特典等)
- 自然保護センター一帯での霧ヶ峰案内機能強化

初来訪者の満足度を高めるための施設改修・改善

- 案内誘導表示の充実
- 多くの方が行き来する場所での案内サイン強化・マップ配布などの充実

方針3

いい景色のなかで心地よいひと
ときを過ごせる空間づくり
～過ごしたい景色づくり～

<ポイント>

空き建物発生を抑止
草原環境の維持

方針4

強清水ならではの特別感の創出
～強清水スペシャルプログラム～

<ポイント>

星空 鹿
緩斜面の雪と草原
360度の景色
団体受け入れ可能な体制

方針5

『初めての自然アクティビティ』を
やさしく導くしくみの構築
～霧ヶ峰ネイチャーアクティビティ
スクール～

<ポイント>

緩傾斜を活かした様々な
アクティビティの入門
編・トレーニングの場
ファミリー・グループ旅
行

ソフトの方針

縮小するコミュニティの今後の持続のため
に、民間の力も交え、そこに行政も連携す
る『公民協働』の地域づくりに取り組む

- 自然体験活動促進計画制度・利用拠
点整備改善計画制度等の活用
- 景観保全のための資金確保策の検討
(一部施設利用の料金見直し等)
- 協力者になる人々の来訪・宿泊促進
(ワーキングホリデー方式等)

自然保護センター(県施設)も交えた自然
資源活用のためのしくみや体制の構築

- 自然保護センターや観光協会提供の
自然プログラム+強清水地区でのプ
ログラム実施のしくみづくり
- 宿泊者向けプログラム・強清水地区
オリジナルプログラムの創出

緩やかな斜面を活かした初心者向け、ファ
ミリー向けのソフト(アクティビティや体
験プログラム)の強化・充実

- ファミリー・グループ旅行をターゲ
ットとした情報発信・誘客
- 通年で様々なネイチャースポーツや体
験充実に向けた人材育成の支援
- 行為制限についての関係機関との調整
の円滑化

ハードの方針

景観阻害要因の除去と環境整備との連動に
よる景観形成(育成)の取り組みの支援の
充実

- 荒廃景観改善・荒廃建築物の撤去の支援
- 老朽化の進む公共施設の改修
あるいは撤去・更新・施設転換等
- 既存建築物の円滑な改修へのサポート
(自然公園法等の建築形態規制対応)
- 企業体との過去の縁を活かした未利用施設
のコワーキングスペースの可能性検討

老朽化した施設の機能転換等により、新たな
旅のニーズや体験プログラム等の実践を下支
えする施設の充実

- プログラムの具体化に合わせての補完
的な施設改修・整備項目の抽出・検討

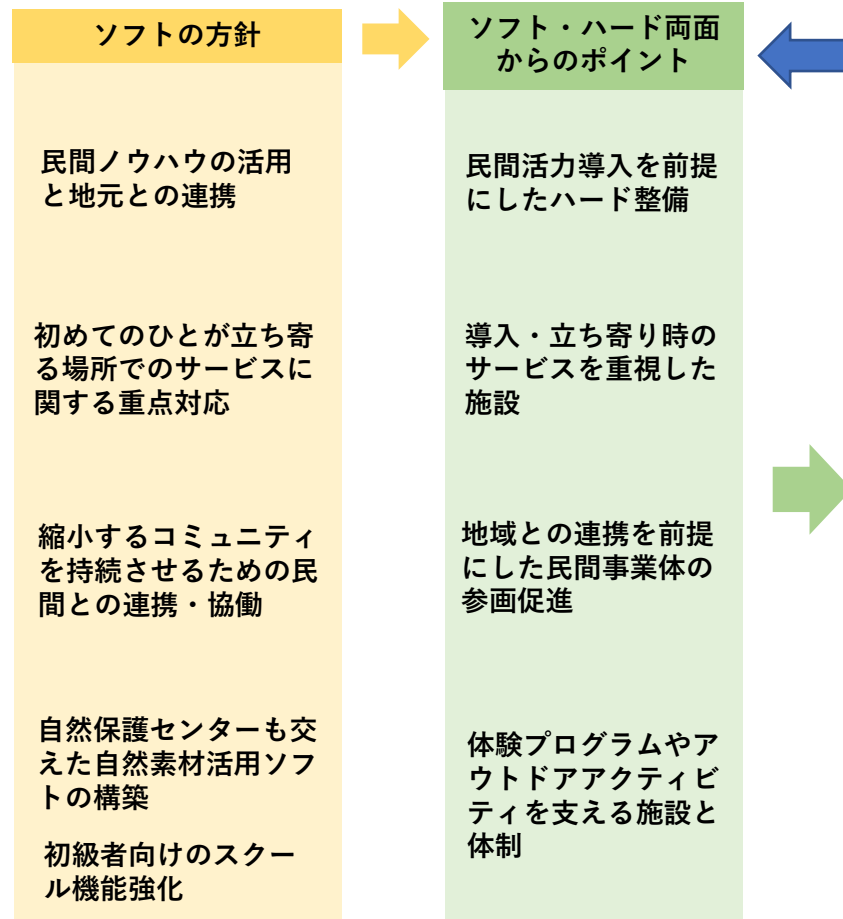
アクティビティの満足度を高めるうえで
重要なサービス提供につながる施設整備
や改修

- 利用可能なエリアの確保と補完的な
施設整備の支援
- 各種法規制や既存の敷地利用との調
整

3. 市有施設の再整備等の方針

(1) 再整備等の方針設定

霧ヶ峰の活性化・再整備に関する基本方針を踏まえ、市有の観光施設及びスポーツ施設の今後の再整備等の方針を整理します。



市有施設（観光・スポーツ施設）の現状分析

リフト（スキー場）	キャンプ場・スポーツ施設
リフト検討会(H29.4)の方針 ファミリーグレンデへの転換:H29年度より経営改善に取り組み、好転しない場合には民営化や終期を設定した事業縮小・廃止の検討を行う 公営スキー場にのしかかる負担と限界 暖冬・温暖化: 雪づくりノウハウの限界 コロナ禍、復活ファミリー層のニーズとのミスマッチ 等 施設維持だけで毎年1000万超+光熱水費500万円。運営費2.5~3千万(冬山:スキー90日 夏山45日)。霧ヶ峰高原で運営コストが最もかかる市有の施設 ⇒過去の経緯、運営コストの推移やスキーを取り巻く環境、等を考慮すると、市単独での採算性の向上・改善に向けては厳しい状況が続く	○キャンプ場 利用増加傾向の一方で施設の管理棟など一部施設では老朽化も進行。 セルフサービス主体の期間限定の運営。 現在の体制は最低限の管理ができる程度であり、サービス充実には相応の体制構築が必要。 ○体育館 老朽化が顕著で一部破損あり。耐震未対応。 現在は危険箇所もあり使用困難な状況で、霧ヶ峰学園施設を借りることもある。今後のあり方を検討する適期。 ○陸上施設・グラウンド・クロカンコース 宿泊の主要な目的(とくに小中学生の合宿利用)になっており、スポーツ施設の利用の中心。 ○マレットコース・テニスコート・グライダー施設 上記に比べると利用は少ない傾向。

今後の市有施設 再整備等の方針

○スキー場は冬季の収益面で一帯の暮らしを支える要素であり、存続意向は強い。
○リフト運営の費用負担(支出)の大きさを補完できる強力な収入源確保が必要。
○そのためには豊かな自然、良好な景色の広がる霧ヶ峰での滞在・アクティビティ体験の充実が必須

○リフト
①一帯の資源を総合的に活用して、1年を通じて収益性を確保しながらスキー場も含めたリフト運営ができる方法を、民間提案を受けながら模索。
ここで可能性が見いだされた場合は、民間譲渡等の手法を通じて民間による運営に移行する方法を検討。
②上記の①が困難な場合は、リフトを縮小もしくは廃止し、年間を通じての多様なアクティビティや自然体験をより前面に出した観光エリアへと転換。

○キャンプ場の機能強化は活性化に有効な方策
○体育館は、合宿利用時の雨天対策として重要だが、今後のニーズ次第では、アウトドアアクティビティの提供に役立ち、多目的に使える屋根付き施設としての改善していくことも手法のひとつ。

○キャンプ場
スキー場も含めた通年型での来訪増及び収益力向上につなげるべく、機能強化を検討。
○体育館
老朽化対策と合わせて、活性化の方針と調整しながら、今後の施設の方向性の検討が望ましい施設。
○陸上施設・グラウンド・クロカンコース
今後も中心的な施設として有効活用が継続されると考えられる施設。
○マレットコース・テニスコート・グライダー施設
利用ニーズや施設の状態を踏まえ、活性化構想と連携しながら、有効な活用等を検討する施設。

(2) 当面の展開 (案)

①R4～5の2年間で以下の可能性を探る。

- ・収益力ある施設の補完的整備（民間活力導入）とセットでの既存施設運営の改善等により、スキー場や夏山リフト等を含むリフト運営を継続。

- ・スタート段階では指定管理制度も併用し、施設はいずれ譲渡とする形を検討

②上記期間中に①が困難との結論に至った場合、リフト施設の運営規模や方法を見直し、季節の違いも活かした多様なアクティビティや自然体験提供に重点を置いた方策に切り替える。

【リフト】

施設の縮小もしくは廃止を検討。

【新たな魅力付け：滞在・体験拠点】

現在、スキーを中心としている冬季利用スタイルが変化するため、これを補う新たな魅力を生み出す滞在・体験の場を創出。

現スキー場エリアを含め一帯を利用した新たな滞在・体験拠点を民間主導で整備する方法を探る。

エリアについては下記が候補。

- ・Aの敷地を利用
- ・Bの拡張
- ・その他のエリア
(山並みの眺望が良好な場所等)



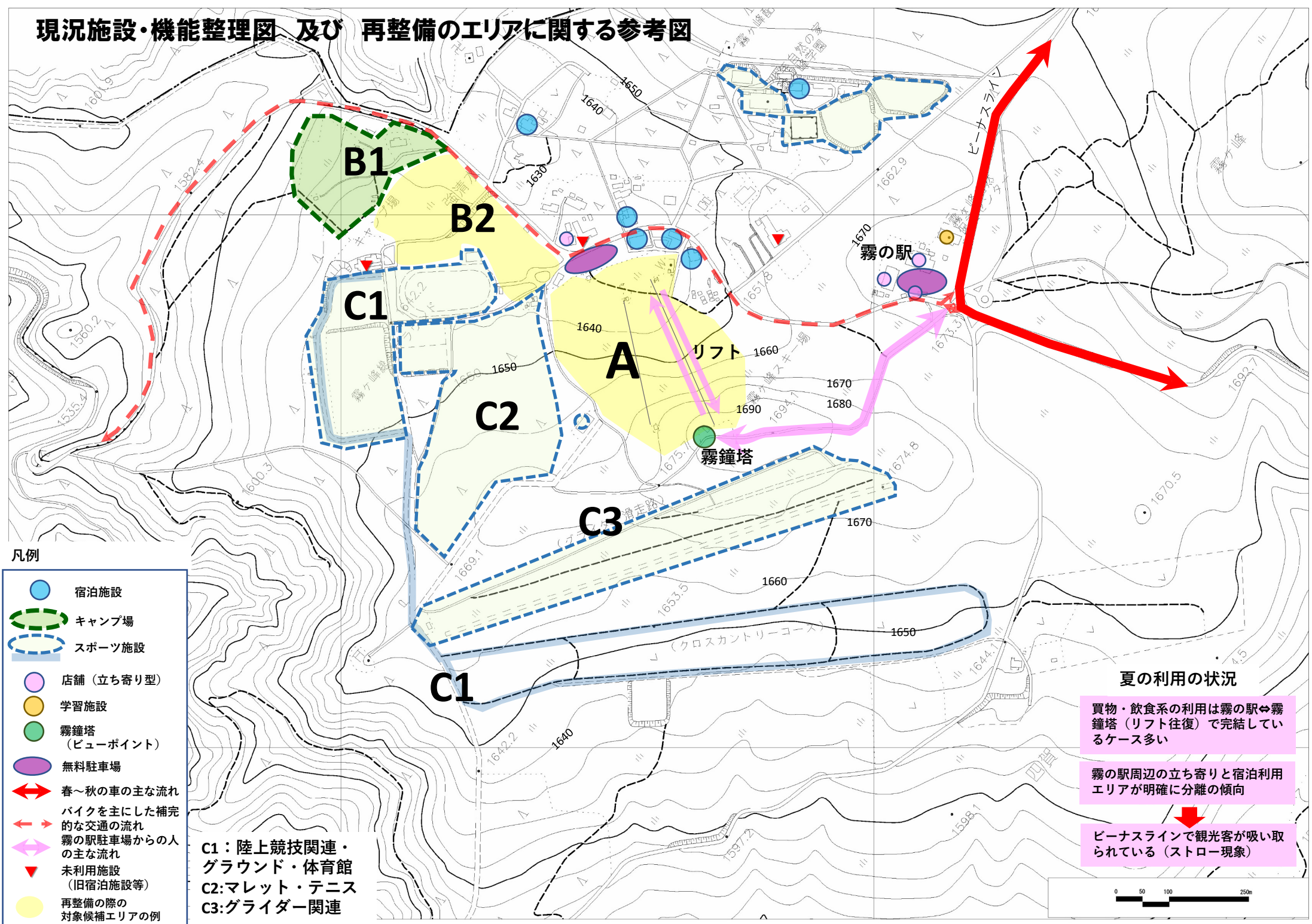
(3) 再整備の想定ケーススタディ

霧ヶ峰の活性化の実現に向けては、市有施設の運営での収支のバランスの悪化がもたらすマイナスの影響を減らし、地域にもプラスの要素を生み出す対策が必要と考えます。その方法として次の3つを想定しました。

区分	ケース1	ケース2	ケース3
再整備・活性化の考え方	○新たな誘客が期待できる滞在・体験の拠点を創出（民間整備）して収益増を図り、リフト等の施設の維持・改善を進め、年間を通じての収支バランスを改善。 ○季節ごとの霧ヶ峰の既存資源の魅力を極力伸ばす考え方を重視した再整備・活性化。	○負担の大きな施設の規模を縮小するとともに、現状改善＋新たな機能付加により利用増を図り、年間を通じての収支バランスを改善。 ○霧ヶ峰の観光における市有施設のマイナス要素を改め、霧ヶ峰のもつ強みを段階的に強化していく再整備・活性化。	○支出バランスに課題をもつ施設をとりやめ、別の機能を有する空間にして再生し、年間の収支バランスを改善。 ○霧ヶ峰に新たな強みをつくり出していく再整備・活性化。
A リフト (スキー場エリア)	存続 例) 夏季：滞在・体験等の拠点 アクティビティエリア 冬季：スキー場 ⇒民営方式、将来的な譲渡も視野	縮小 (1基のみ) 例) 夏季：夏山リフトとアクティビティの組み合わせ 冬季：ファミリーゲレンデ＋雪遊び・体験等 ⇒民営により新たなノウハウ導入	廃止 (撤去) 例) 年間通じたアクティビティエリアとして再整備・運営 ⇒民設民営もしくは公設民営
B キャンプ場	B1の一部改修 (老朽化施設等) ⇒当面市営、将来的に民営へ	B2へ拡大。全体の機能強化。 ⇒公設民営または民設民営	B2へ拡大し全体の機能を強化 あるいは B1の機能を別エリアに設定 ⇒民設民営
C スポーツ施設群 C1陸上関連 C2テニス・マレット C3グライダー関連	現状維持 を基本	キャンプ場の拡張に合わせて、 一部の老朽化施設の機能転換等 を検討	キャンプ機能を含む滞在や体験の機能再編に合わせ、 一部の老朽化施設の機能転換や再編 を検討
新たな滞在・体験等の拠点	山並みの眺望がより優れたエリアにアクティビティ体験等のできる滞在エリアを採算ベースで新規整備。 ⇒民設民営を想定	現在のリフト一帯やその周辺を活かした滞在・体験等の機能の拡充	現在のリフト一帯やその周辺の滞在・体験等の拠点等への転換。（発展的な展開として良好な山並みを眺める滞在エリアの段階的拡大も視野）
特徴・課題	・新たな魅力を加え、 これまでのファンの再来＋新たなファンで来訪増 。年間2季の利用を促進。 ・新たな滞在・体験エリアの 整備規模次第では、自然公園法の許認可、環境保全対策等の調整・協議等 に相応の 労力・時間 を要する可能性あり。	・幅のある選択ができる手法で、ニーズの多様化、気候変動、コロナ禍等、 社会情勢の不安定要素に柔軟に対応 。 ・ 民間のみで採算をとるには課題あり。運営費も含め一定の公共投資は継続して必要 となる可能性あり。 ・様々な選択肢のあるソフトを運営できる体制やしくみの充実が重要。	・新たな魅力で新しい霧ヶ峰ファンを確保していくことを重視。その魅力でこれまでのファンの再来も導く。 ・11月～4月までの寒冷期の観光利用の新たな目玉づくりが容易に見出せない難しさあり。 ・大胆な施設の再編や整備を伴い 相応の労力・時間・費用を要する 。その間の周辺施設の経営等への影響も大きい。

注) 表中のアルファベット記号は次ページの図中の表示と対応

現況施設・機能整理図 及び 再整備のエリアに関する参考図



4. 今後進め方(イメージ)

丸ゴシック：ソフトに関する取り組み

太ゴシック：ハードに関する取り組み

方針1
通年で霧ヶ峰の天然資源を
活かし切り地域経済を循環
～天然資源フル活用で生み出す好循環～

方針2
新たな霧ヶ峰ファン獲得に向け
た発信・サービスの充実
～霧ヶ峰デビューサポート～

方針3
いい景色のなかで心地よいひと
ときを過ごせる空間づくり
～過ごしたい景色づくり～

方針4
強清水ならではの特別感の創出
～強清水スペシャルプログラム～

方針5
『初めての自然アクティビティ』を
やさしく導くしかけ・しくみの構築
～霧ヶ峰ネイチャーアクティビティ
スクール～

【関係者による協議会等を通じた検討】

- 収益力向上のための民間による新たな施設導入の検討
 - ・キャンプやアクティビティの拠点
 - ・法的手続きに関する調整等
- 一帯の観光施設の活用と季節の違いを活かせる施設の整備をセットとした民間運営等の調査検討

○地元との定期的な協議調整
→ 地元に着した事業体探し、運営体制構築の準備

- 世代に応じた訴求力ある情報発信
- 自然保護センター一帯での霧ヶ峰案内機能強化

- プログラムの具体化に合わせての補完的な施設改修・整備項目の抽出・検討

○自然体験活動促進計画制度・利用拠点整備改善計画制度等の活用による地域との合意形成・各種取り組みの詳細化

自然公園法関係の調整と一体で

○自然保護センターや観光協会提供の自然プログラム+強清水地区でのプログラム実施のしくみづくり

- 老朽化の進む公共施設の改修あるいは撤去・更新・施設転換等

○宿泊者向けプログラム・強清水地区オリジナルプログラムの創出

- 行為制限についての関係機関との調整の円滑化

- 利用可能なエリアの確保と補完的な施設整備

R7年度以降

- 収益力向上・地元連携につながる既存施設の機能強化・改修

- 新たなファン獲得のキャンペーン（通年の複数回来訪者への特典等）

- 多くの方が行き来する場所での案内サイン強化・マップ配布などの充実

- 案内誘導表示の充実

- 景観保全のための資金確保策の検討（一部施設利用の料金見直し）
- 協力者になる人々の来訪・宿泊促進（ワーキングホリデー方式等）

- 荒廃景観改善・荒廃建築物の撤去の支援
- 既存建築物の円滑な改修へのサポート（自然公園法等の建築形態規制対応）

- 企業体との過去の縁を活かした未利用施設のワーキングスペースの可能性検討

- ファミリー・グループ旅行をターゲットとした情報発信・誘客
- 通年で様々なネイチャースポーツや体験充実に向けた人材育成の支援

【参考】基本方針設定・取り組みの参考資料

方針1 関連 通年で霧ヶ峰の天然資源を活かし切り地域経済を循環

【施設の整備・再編等の考え方】 ⇒本資料 P7参照

○霧ヶ峰の11月～4月
＝実質「冬季」
この間の地域の暮らしと
施設経営を支えるメイン
は冬季のスキー場

○環境と社会情勢
・暖冬傾向
・コロナ禍
・個人旅行増
・スキー人口伸び悩み
・地域の担い手減少

○現状で施設運営上負担の大きなリフト
○収支のアンバランスを解消しながら、
霧ヶ峰全体の活性化につなげていく方法
を検討

方法① 別の収益を増やし採算確保
方法② 負担自体を縮小
方法③ 負担を解消
別の機能に転換

【今後の体制構築のポイント】

- 得意分野で連携できるしくみを構築し、相互に連携
- お客様目線でのサービスのさらなる充実
- アクティビティ提供等ができ、地域コミュニティとの連携も可能な外部からの協力者（事業者）の確保

霧ヶ峰旅館組合

○これまで構築してきたネットワークで誘客・宿泊利用促進
(主に合宿等の団体利用)

自然保護センター
エコツアー等での連携

○主に個人旅行者向けのエコツアー等の実施での連携。

キャンプ場&リフト等運営(今後)
民間活力導入による運営
地域の維持にも関与できる体制

○アクティビティの提供等
キャンプやスキー(雪)をセット
にした外部から(民間事業者)
のノウハウ受け入れ

方針2 関連 次世代向けに特化したサービスの充実

【アンケート調査結果等からみえる傾向:次世代を重視する理由】

■『霧ヶ峰』を知らない世代 が増えている

[PTABLE003]

Q3 これまでに「霧ヶ峰」はどの程度ご存じでしたか。1つ選んでください。

世代別で見ると20代以下で70%超。60代では26%。世代とともに認知度が下がる。50代でも40～50%確認され、今後、場所として、観光地としての認知の次世代への波及が重要。

■『知って、行って、ファンになる流れ』が弱まっている

以前はスキーや修学旅行、企業の保養施設、TVCM等を通じて知る人多数。今は団体旅行減、TV離れ、企業保養所撤退、若者の車・スキー離れ等厳しい状況。
とはいえ、知れば良さがわかって訪れる流れはある。

	全体	場所も地名も知っていた	地名としてだけ知っていた	「霧ヶ峰」という言葉は知っていたが、地名ということは初めて知った	全く知らなかった(この画像を見て初めて知った)
全体	(10000)	19.1	26.5	29.2	25.2
性別					
男性	(5046)	▲22.0	26.1	▼27.2	24.8
女性	(4954)	▼16.1	27.0	▲31.3	25.7
年齢					
12才未満	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0
12才～19才	(294)	▼9.9	25.5	▲35.4	29.3
20才～24才	(583)	▼6.2	▼21.1	▲33.8	▲38.9
25才～29才	(970)	▼8.5	▼20.0	▲34.6	▲36.9
30才～34才	(939)	▼8.7	▼17.9	▲33.7	▲39.7
35才～39才	(998)	▼12.6	▼22.2	▲34.3	▲30.9
40才～44才	(1031)	▼13.1	25.1	▲31.6	▲30.2
45才～49才	(1288)	▼15.5	26.4	▲32.0	26.1
50才～54才	(985)	20.7	27.7	29.8	▼21.7
55才～59才	(837)	▲26.0	▲31.5	27.0	▼15.4
60才以上	(2075)	▲38.4	▲35.3	▼17.7	▼8.6

■次世代ファンを生み出し、将来にわたって持続する観光エリアへの転換

○来訪者のニーズ

- ・アクティブ系(一人・グループ⇒所帯をもてば家族に)と休息・リフレッシュ系(カップル⇒夫婦)の2極に分かれる。
- ・双方のバランスをとるしかけ・しくみは重要

○施設の更新や再配置の検討

時代や環境の変化、アフターコロナを認識し、上記の2極の利用ニーズをカバーする施設やサービス提供のしくみ、老朽化施設の改修や更新等によるエリア全体の「楽しみ方」の再配置・再編が重要。

○次世代の霧ヶ峰デビューのしかけ

- 【これまで】 団体の体験旅行での霧ヶ峰初来訪
スポーツ団体・サークル・学習旅行
- 【これから】 家族旅行 or カップル旅行で 霧ヶ峰デビュー

方針3 関連 いい景色のなかでいいひとときを過ごせる空間づくり

【自然公園法における新たな制度の活用】

自然公園法の改正（R3.3.2閣議決定 R4.4.1施行）では、自然体験活動促進計画制度・利用拠点整備改善計画制度等が創設され、行政や事業者が利用面での施策を強化し、地域の資源としての価値を向上を目指して、協議会を設け、必要な計画を取りまとめ、環境大臣・都道府県知事の認定を受けた場合は、自然公園法の許認可の手続きを簡素化できることとなった。

自然公園法の一部を改正する法律案の概要

国・都道府県が保護管理を担う国立公園・国定公園において、**地方自治体や関係事業者等の地域の主体的な取組を促す仕組み**を新たに設け、保護のみならず**利用面での施策を強化し、「保護と利用の好循環」**（自然を保護しつつ活用することで地域の資源としての価値を向上）を実現するものです。

■ 背景

- 地域の過疎化が進む一方、コロナ禍で自然や健康への関心が高まる中で、**我が国を代表する優れた自然の風景地である国立公園・国定公園**（以下「国立公園等」という。）は、国内外の多くの人々をひきつける観光地などとして、**地域社会にとって重要な資源**となっている。
- その自然の価値を活かし、地域活性化に資する**滞在型の自然観光**を推進するためには、**魅力的な自然体験アクティビティの提供や旅館街等の上質な街並みづくり**、認知度の向上が必要であるが、それが十分にできていない。

■ 主な改正内容

1. 地域主体の自然体験アクティビティ促進の法定化・手続の簡素化

- 公園計画において、従来の利用施設のハード整備に加え、新たに自然体験アクティビティの促進を位置づけ、市町村やガイド事業者等から成る協議会を設け、**自然体験活動促進計画**を作成。環境大臣・都道府県知事の認定を受けた場合には、計画に記載された**事業の実施に必要な許可を不要とする**。
- これにより、計画に基づく**魅力的な自然体験アクティビティの開発・提供、ルール化等**の関係者が一体となった取組を促し、**旅行者の多様なニーズに応え、長期滞在につながる国立公園等の楽しみ方を提供**。

2. 地域主体の利用拠点整備の法定化・手続の簡素化

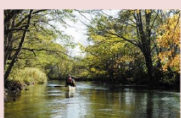
- 公園利用の拠点となる旅館街等の街並みを整備するため、市町村や旅館事業者等から成る協議会を設け、**利用拠点整備改善計画**を作成。環境大臣・都道府県知事の認定を受けた場合には、計画に記載された**事業の実施に必要な許認可を不要とする**。
- これにより、計画に基づく**廃屋の撤去、機能充実、景観デザインの統一**など、関係者が一体となった**自然と調和した街並みづくり**を促し、**国立公園等における魅力的な滞在環境を整備**。

3. 国立公園等の保全管理の充実

- 国立公園等の国内外へのプロモーションの促進、クマ・サルなど野生動物の餌付け規制による人身被害等の予防、公園事業の譲渡による公園事業者の地位の承継に関する規定の整備、公園管理団体の業務の見直しによる指定の促進、特別地域等における行為規制の違反に係る罰則の引上げ等の措置を講じる。
＜改正法の施行期日：公布の日から1年以内で政令で定める日＞

自然体験活動促進計画のイメージ

望ましい自然体験アクティビティの提供・開発促進、利用者の受入れ体制整備、上質な自然体験の場の確保、適正利用のためのルール策定等



自然を満喫できる楽しみ方の提供



利用拠点整備改善計画のイメージ

集団施設地区など利用拠点の面的な再生・土質化のため廃屋の撤去やその場所への新たな投資、利用者目線の機能充実、景観デザインの統一、電線の地中化等



自然と調和した滞在環境の整備

国立公園等の魅力の向上と地域の活性化の実現

【企業向けのスペースの新しい形の参考例】

霧ヶ峰ブランドは全国区。過去には企業の保養施設も多数あり、企業もよいと認識した空間であることから、企業向けの新たな縁づくりも重要な視点。コロナ禍の影響でワーケーション等のニーズも高まる一方、家族経営主体の宿泊施設が多いため、企業のニーズに応えられる空間が設けにくく、過去から積み上げられた縁や全国区の知名度が十分に生きていない状況。

下記に例示するような施設が県内でも整備され始めており、可能性を検討する価値がある。

（参考例：長野県小海町）



憩うまちこうみ拠点施設

住所： 長野県南佐久郡小海町大字豊里4283-4
利用人数： ～20名（推奨）
主な設備： ワークスペース、休憩スペース、ネット環境（Wi-Fi）、複合プリンター、プロジェクター、スピーカー、マイク、コンセント、WEBカメラ、ミニキッチン、冷蔵庫、電子レンジ
利用料金： 1時間 500円
1日 5,000円
ご利用方法 事前予約制 ※ご利用の際はあらかじめお問い合わせください。
（お問い合わせ先 憩うまちこうみ事務局 TEL:0267-92-2525）

特徴

①原則、憩うまちこうみ協定企業のみ利用が可能

本施設は憩うまちこうみ事業並びにRe・Designセラピーの拠点であり、協定企業の皆様の働き方改革や健康経営と、企業と連携したまちづくりの推進を目的とした施設です。そのため、小海町民以外のご利用は原則として協定を結んだ企業の皆様にのみ限らせていただきます。

②1棟完全貸し切り

本施設は、ワークプレイスとしての利用の他にも、研修、合宿、キックオフミーティングなど様々なタイミングでご利用いただき、社内のコミュニケーションやインベーションにつなげていただければと思っています。そのため、ご利用の際は企業単位での貸し切りでご利用いただくことを前提にしています。

※打ち合わせ、商談、合同ミーティングなど、協定企業を含む団体での利用は可能です。

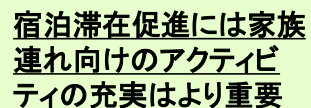
強清水ならではの特別感の創出 ～強清水スペシャルプログラム～

【新たに強清水エリアに導入の候補になるアクティビティの例:他事例から類似条件のものを抜粋】

■ディスクゴルフ/ フライングディスク

■トレイルラントレーニング

霧ヶ峰は警察犬の訓練の会場として古くから定着。愛犬家が増えるなか、ワンちゃん連れのお客様ニーズに応えられる可能性を有する。



カップルや夫婦
＝気球 テラス・食事
(短時間利用)

家族連れ
＝グライダー
オートキャンプ
斜面アクティビティ
(長時間利用)



<https://vamap.com/activities/6864444>



https://www.skijam.jp/green/dogrun_park/

■斜面遊び&遊びアイテム利用

■フォレストアドベンチャー

芝そり



ボツカール



マウンテンボード



ランニングバイク



■ファットバイク

A group of people are riding fat bikes on a snowy trail through a forest. The lead rider is wearing a black jacket, yellow gloves, and a green helmet. The trail is covered in snow, and the trees are bare, indicating winter.

あづみの公園大町・松川地区

A person wearing a dark jacket and helmet is riding a fat bike with large, blue-tinted tires on a snowy mountain trail. The background shows a clear blue sky and distant mountain ranges.

<https://greenfield.style/article/15048/>

■ 氣球搭乘

A photograph showing a child and an adult looking up at a hot air balloon. The hot air balloon is red and yellow with a cartoon face. The child is wearing a blue hat and the adult is wearing a green hat. They are both reaching up towards the balloon. The background is a blue sky with white clouds.

■バイクキャンプ

A white and black motorcycle is parked on a grassy field. In the background, there are several tents and a dark-colored car. The scene appears to be a campsite or a gathering in a natural setting.

バイクと一緒に休めるキャンプ場

方針5 関連 『初めての自然アクティビティ』をやさしく導くしくみの構築

霧ヶ峰の観光利用動向の分析、地元の旅館組合への聞き取り調査、国内の観光利用の動向、今後の社会経済変化等と、これまでの霧ヶ峰の宿泊施設の成り立ちや経緯、宿泊施設の特色、霧ヶ峰の天然資源のもつ特性を踏まえると(下図)、**ファミリーやグループ単位での『自然のなかでの様々なアクティビティ』体験を主体とした滞在促進がより重要になる**と考えられた。あわせて、初心者・初級者向けの手ほどきも含めたサービスも重要となる。

【今後の霧ヶ峰の利用促進における重点的なターゲットの設定】

